

第 58 回東葛研修会

観察会の危機管理の実践『千駄堀の自然と歴史を訪ねる』

日 時：2011.5.10 9:30～12:00 天気：晴れ

参加者：20名（東葛13名 協議会7名）

担当指導員：蔀 正雄 田中玉枝

田中玉枝（松戸市）

初めての危機管理の実践研修会は、申し込みの際、緊急連絡先を聞くところから（あなたが倒れたとき、連絡する先、自分の携帯ではない）。そして当日は自己紹介から始まり、担当の蔀より「今日はみんながチームです。お互いに相手の様子に気を配りながら歩きましょう」とのレクチャーがあり、体をほぐして出発。台地から谷津へと変わる地形を歩きながら、階段の上り方、坂道の歩き方、後ろの人と距離が開いていないか、先頭を行く指導員は時々後ろを振り返り確認する。などを実践しました。

田中が里山ボランティアで参加している新山の森では、途中に木を横にかました坂は木の上に乗らない。蹴らないで平らに足を置くなど、危険を回避する歩き方を確認し、転ばないようにするのは自分の責任という言葉を実感しました。今回は歩きながらの観察はあまりせず、ポイントを決めてその日のテーマに沿って、そこで話しました。ポイントは5箇所です。キシノウエトタテグモの観察ではやや急な斜面でしたので、危ないところでは「危ないです。滑りますから気をつけて」と言葉で言うのではなく、手を貸して危険を防ぐという実践を蔀が見せました。

21世紀の森と広場では、緊急の場合は直接的に『Aさん 119番に救急連絡して下さい。Bさん AEDを持って来て下さい』と頼むなど具体例を聞きました。そして「ガイディングリスクアナリシスシート」を作る必要性や、その手順、ファーストエイドの順序、必要な救急用品や持ち物の確認、搬送や休ませる体位なども実践。計画通りの12時丁度に終わりました。後の予定がある人がいるので、終了時間は守る。これも大切な危機管理ということがわかりました。

参加された皆様：今回配布した資料のガイディングリスクアナリシスシートは参加された方が、参考にしてオリジナルを作ることは結構ですが、表そのものをコピーして配布することはご遠慮下さい。

ガイディングリスクアナリシスシートとは

蔀 正雄

行程中にどんな危険がありそうかを整理し、危険の度合いを客観的に評価した分析表です。又危険をどのように軽減するか具体策を考え、分析表に盛り込みます。そして対策を果敢に実行する勇気までの一連の流れがリスクセンスです。分析は同一場所でも時期、天候、引率者、参加者、によって危険要因と評価が異なり、行程を分割するほど分析枚数は増え、精度が増します。今回は最初の下見で作ったものを精査し必要時間が不足すると判断し集合時間を早めることにしました。2度目の下見で手直し仕上げ本番を迎えました。

